

市長から市民のみなさんへ

～全ての世代が笑顔になれるまちづくり、そして「まち育て」を目指します～

4月24日から3期目の市長としての任期をスタートさせていただきました。市民のみなさまから大きな期待を受けていることを身にしみて感じているところです。これから4年間、市民のみなさまとともに活力と笑顔あふれるまちづくりを進めてまいります。

思い返しますと、平成29年(2017年)に山陽小野田市長という重責を担わせていただいたから、早いもので9年目を迎えました。

1期目は、民間から行政の分野へ参りましたので、山陽小野田市の実態を把握することに努めながら、いわば土台づくりを行いました。特に、平成30年度(2018年度)から12年を計画期間とする第二次山陽小野田市総合計画を策定し、将来都市像である「活力と笑顔あふれるまち スマイルシティ山陽小野田」の実現に向けて取り組んでまいりました。市のロゴマークやイメージカラーの策定を通じて、本市のイメージ発信を図り、スマイルプランナー制度の創設など、「協創」の考え方を具体的な施策に反映してまいりました。

2期目がスタートした令和3年(2021年)は、新型コロナウイルス感染症への対応が緊急の課題として迫る中で、平時と同じような行政運営を行うことが難しい状況にありましたが、それゆえに市民のみなさまに寄り添った施策を展開していくことで、逆に市民のみなさまとの距離が縮まった側面もあったと感じています。それは、何よりみなさまと「一緒に力を合わせて難局を乗り越えていきましょう」という思いが重なったことであり、まさに「協創」の理念を共有させていただくことができたものと強く感じています。改めて感謝申し上げます。

こうした中であって「協創」の考え方を具現化したものとして、LABVプロジェクトによるAスクエアが昨年4月にオープンし、多くのみなさまに活用いただいているところです。また、みなさまにご尽力いただきまして、昨年9月には市内11地区で地区運営協議会(RMO)が立ち上がりました。それぞれの地域で主体的に地域づくり計画を策定していただき、それぞれの地域の課題解決に自ら取り組む活動を進めていただ

いているところです。みなさまが満足できる持続可能な地域づくりができるよう、これからもしっかりとサポートしてまいります。

そして、これから3期目を迎えるに当たり、特にこの令和7年度は第二次総合計画における中期基本計画の最終年度となります。しっかりと最終年度を締めくくることにより、令和8年度(2026年度)から始まる後期基本計画につなげていきたいと考えます。第二次総合計画の集大成となる期間として、きらら交流館から海辺の駅「そらうみ」へのリニューアルや日の出保育園の建て替え整備などの事業が具体化してまいります。さらに、厚狭高等学校南校舎跡地への山口東京理科大学新学部・新キャンパス構想を推進してまいります。

こうしたハードをみなさまに活用していただき、ソフト面での取組を進めていくことで価値のある施設にしていくことが大切だと思っています。行政が企画することもあります。やはり多くのみなさまに主体的に「やりたいこと」に取り組んで達成感を感じていただき、心の中から笑顔が生まれていくことが、「まち育て」につながるものと考えております。

DX^{※1}の推進、さらにはGX^{※2}の推進など社会が大きく変革していく中、「協創」のパートナーである市民や企業、団体、そして大学などのみなさまと一層力を合わせ、持続可能な地域社会の形成に向け市職員一丸となって、全ての世代が笑顔になれるまちづくり、そして「まち育て」に全力で取り組んでまいります。

引き続き、みなさまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

※1 DX：デジタルトランスフォーメーション。デジタル化によって生活のあらゆる面でよい方向に変化させること

※2 GX：グリーン・トランスフォーメーション。温室効果ガスの排出削減と経済成長の両立を目指す取組

